

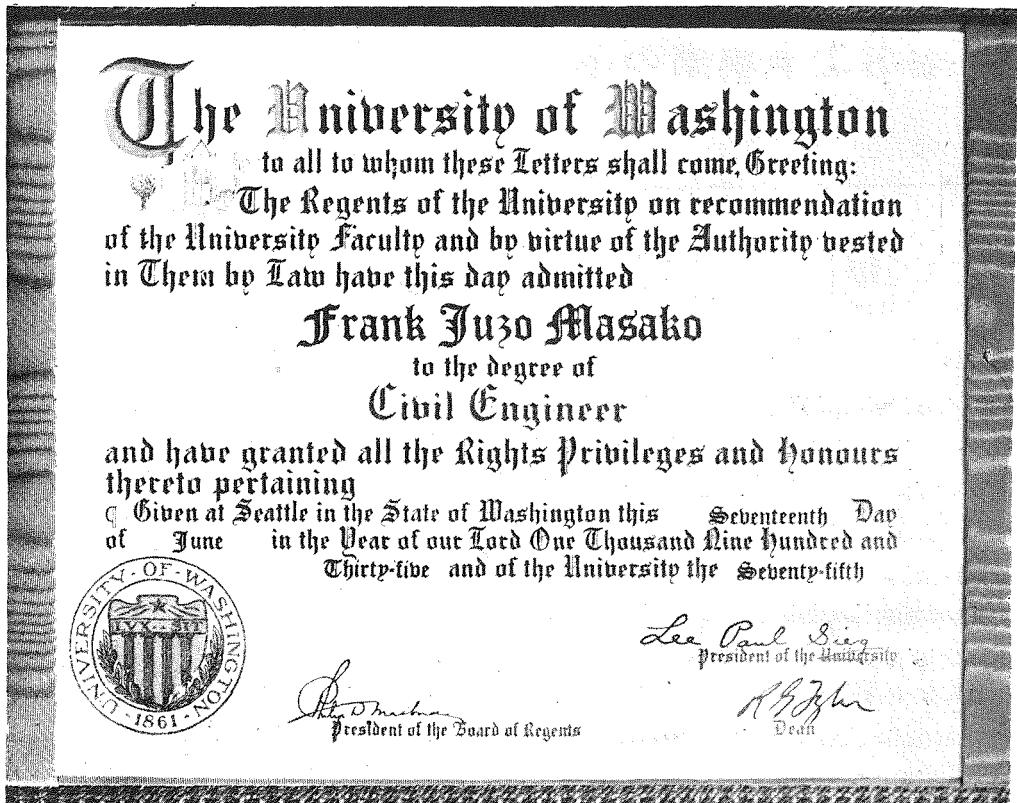


## 正子重三氏の榮譽

潜函工事のエキスパートとして  
アメリカより學位を贈らる

我國に於ける潜函基礎工事の爲に  
拾有餘年營々として精進を續けつゝ  
ある米國工學士正子重三氏は今回そ  
の母校たる米國ワシントン大學より  
名譽ある工學博士の學位を贈られた  
日本人にして此種の學位を得た土木  
技術家は、まさに氏を以て嚆矢とする。

正子氏は1915年にワシントン大學  
土木工科を卒業し、シカゴのロツク  
アイラント鐵道へ5年間勤務、大正  
9年に歸朝してからは大阪の日本電  
力會社へ3年程勤められ、大正12年  
彼の關東大地震による帝都の復興事  
業が始まるや、潜函工事の第一人者  
として、永代、清洲の二大橋梁の基  
礎を完成され、續いて新潟市の萬代



橋、隅田川の吾妻橋、大阪の十三大橋、伊勢  
大橋、尾張大橋、又大阪の淀屋、大江の二橋  
梁基礎潜函工事等、現在に至るまで既に 200  
餘個のケーソンを設計施工され、我國に於  
ける潜函工事に劃期的進歩を齎し、之に特殊  
の性能と經濟的價値を附與した技術家であ  
る。

先年我國に於ける最初の萬國工業會議が開  
かれた時、正子氏は日本のケーソン工事に關  
する調査研究を纏めた論文を同會議に提出し  
たが、其論文がワシントン大學教授會の認む  
る處となり、更にケーソンの實際施工に對する  
氏の直しなる態度が認められ、寧ろ今度の  
博士號は其努力に酬ゆるために贈られたもの  
だと聞く。近來日本でも現場の施工を尊重す  
る氣風が増進しつゝあるが、さすが米國の學  
者は此點に於て一步進んでゐるので、正子氏

の實力も遂に認められたわけである。爰に於  
て從來氏の潛函オキスパートとしての手腕に  
信頼し之を後援指導せられつゝあつた我國の  
先輩諸氏も満足せらるゝ事であらう。

帝大教授田中豊博士も我事のやうに喜ばれ  
「斯る特殊の技術を助長することは國家的に  
見ても非常に有意義なもので、それが國際的  
に認めらるゝに至つたとは同慶に堪へない」  
と語られてゐるが、我等工事雑誌人としても  
感を同じうして祝意を表する次第である。

因に正子氏は現在白石多士良氏の經營に係  
る白石式基礎工業社の技師長として益々潜函  
基礎工法の研究實施に精進されつゝある。寫  
眞は最近の正子氏とワシントン大學より贈ら  
れた學位證である。(一記者)